

年 代	出 来 事
1534（天文3）年	イグナチウス・ロヨラおよびフランシスコ・ザビエルら、イエズス会創立。
1549（天文18）年	フランシスコ・ザビエルが島津貴久の許可を得て鹿児島に入港。
1563・1564（永禄6・7）年	高山飛騨守「ダリオ」とその息子「ジュスト」洗礼を受ける。
1569（永禄12）年	織田信長、高槻城主和田惟政 わだこれまさ の仲介で、フロイスに朱印状を授与。京都および信長支配諸国における伴天連 ばてれん の居住を許可。
1573（天正元）年	高山右近が高槻城主となる。
1574（天正2）年	高山飛騨守（ダリオ）が高槻城に教会建立、および墓地建設。
1578（天正6）年	荒木村重 あらきむらしげ による謀反を制圧した際の功績が織田信長に認められ、銭原・音羽・寺辺・泉原・佐保の五ヶ庄が右近に加増される。
1581（天正9）年	巡察使バリニャーノ、高槻で復活祭 15,000 人参加（イエズス会日本年報）。
1582（天正10）年	本能寺の変にて織田信長死去。
1583（天正11）年	茨木市安威在住の安威五左衛門尉了左 あいごさゑもんのじょうりようざ 洗礼を受ける。
1585（天正13）年	豊臣秀吉の大名配置換えにより、高山右近は三島を離れる。
1587（天正15）年	豊臣秀吉がキリシタン宗の布教と信仰を禁止する。
1612（慶長17）年	徳川家康が「禁教令」を発布する。
1614（慶長19）年	大坂冬の陣。高山右近（61 歳）ら 148 名が国外追放。
1615（元和元）年	大坂夏の陣。高山右近マニラにて死去。
1619（元和5）年	京都・大坂でキリシタン処刑。
1633－1649（寛永10－慶安2）年	京都所司代板倉重宗 いたくらしげむね 、五ヶ庄管轄。
1919（大正8）年	千提寺においてキリシタン墓碑（上野マリヤ）発見される。
1919－1930（大正8－昭和5）年	千提寺・下音羽において数多くのキリシタン遺物が発見される。
1926（大正15）年	ローマ教皇使節一行、千提寺訪問。

参考・引用：茨木市教育委員会 2011『隠れキリシタンの里』展示会資料

阪急バス時刻表

停留所	千提寺口		大岩	団地入口
行先	千里中央	阪急茨木 (JR 茨木経由)	阪急茨木	阪急茨木 (JR 茨木経由)
系統	[25] [28]	[81]	[84]	[84] [86] [87]
11		43		08 J23 38 J53
12	16 51	43	23	08 J23 38 J53
13	16	43		08 J23 31 38 J53
14	21	43		08 J23 38 J53
15	16	43		08 J23 38 J53
16	16	44		08 J23 38 J53
17	31	46		08 J23 38 J53

※1 J印：JR 茨木止
※2 お帰りに際しては、会場から「団地入口」停留所まで無料シャトルバスを運行しております。
ただし、バス1台による往復運行のため、乗車人数に限りがあり、しばらくお待ちいただく場合もございます。予めご了承ください。



平成 25 年 3 月 23 日

千提寺西遺跡現地説明会資料

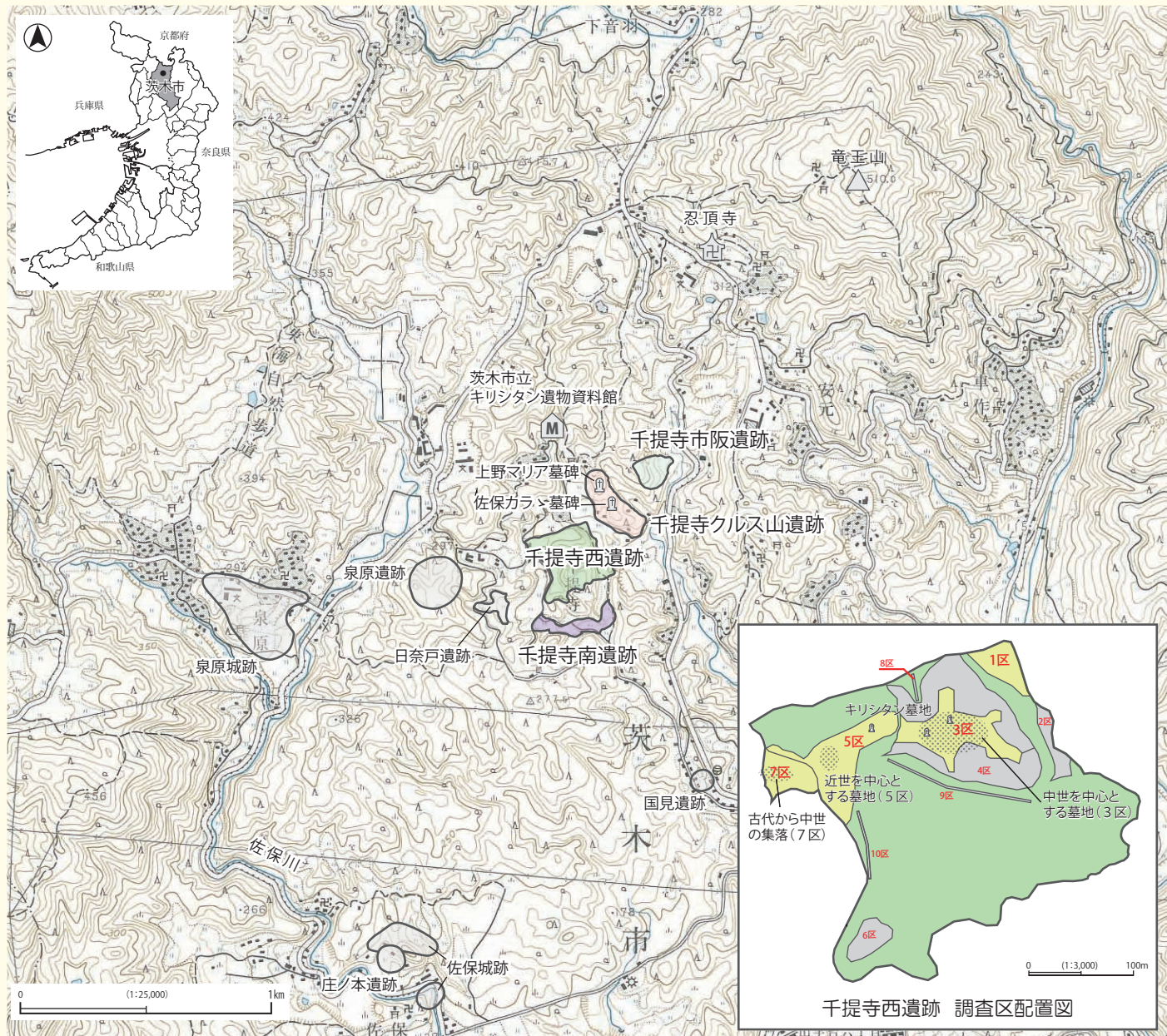
発行年月日：平成 25 年 3 月 23 日
発行 行：公益財団法人大阪府文化財センター
大阪府堺市南区竹城台 3－21－4
印刷 刷：株式会社中島弘文堂印刷所
大阪府大阪市東成区深江南 2－6－8

千提寺西遺跡は、大阪府北部にひろがる北摂の山々の中、茨木市北部の佐保川上流の東側に広がる山間部に位置します。遺跡の標高は約 250 m前後で、標高 510 mを測る竜王山の南側にひろがります。

高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線（新名神高速道路）建設事業に伴い、平成 24 年 1 月より公益財団法人大阪府文化財センターが当地域で発掘調査を実施してきました。これまで調査地の西側に隣接する佐保川左岸においては、弥生時代のものと考えられる石器が発見されたことにより、泉原遺跡が認知されてきましたが、千提寺地区では遺跡の存在が明確に把握されていませんでした。今回の発掘調査をきっかけに、千提寺地区においても千提寺西遺跡をはじめ、日奈戸遺跡・千提寺南遺跡・千提寺市阪遺跡・千提寺クルス山遺跡が存在することがわかりました。調査は全体で約 43,000㎡を予定しており、これまでに約 29,000㎡の調査が終了しております。

今回の発掘調査を通じて、千提寺地区の歴史的な成り立ちをうかがうことができました。谷地形を利用した耕地開発をきっかけに、小規模な集落が営まれるようになったのが平安時代ころのことと考えられます。鎌倉時代になると、この地域の開発はさらに広範囲に及んでいたことが分かります。それとともに周辺の集落に住んだ人たちの墓が、丘陵の尾根筋などに形成され、室町時代から安土桃山時代にかけては、今回の調査で検出したような大規模な景観をとまうものに発展したことがわかりました。

多数検出された墓の中には、キリシタン墓と思われるものが含まれており、当地域が近世初頭のキリシタン資料が集中する場所であることとの関連がうかがわれ、意義深いものと考えられます。



千提寺遺跡群の位置と千提寺西遺跡調査区配置図
(国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図「高槻」に加筆)



写真

上段 調査前のクルス山の風景
下段 遺構検出状況



写真

上段 1 区平安～鎌倉時代の建物跡
下段 2 区遺構検出状況

千提寺クルス山遺跡

千提寺クルス山遺跡では、舌状に張り出した丘陵の頂部を中心とした範囲で調査をおこなっています。小字名は「クルス山」で、大正時代にキリシタン墓碑が発見された地として著名です。特に今回の調査区は、「佐保カラマ」碑が発見された場所にあたります。

調査では、頂部の平坦面で埋土に炭を含み、骨片が出土する墓と考えられる遺構が複数検出されています。同時に染付碗や寛永通寶などが出土していることから、江戸時代後半の時期と考えられます。

千提寺市阪遺跡

千提寺市阪遺跡では、竜王山からのびる丘陵の東斜面（1 区）と頂部（2 区）において調査をおこなっています。

1 区では、平安時代末から鎌倉時代前半にかけての建物跡がみつかりました。周辺からは、青磁や白磁などの輸入磁器を含む、多量の土器が出土しており、居住者の地位の高さをうかがわせます。

2 区では、石仏や墓坑と思われる遺構が確認されていることから、墓域として利用されていたと考えられます。

千提寺西遺跡

1区では、ゆるやかに蛇行しながら流下する谷と、小規模な微高地を検出しました。微高地上では掘立柱建物跡等を検出したことから、耕作地を開拓し、農作業に従事した人たちの集落があったと考えられます。古代末葉から中世にかけて、一帯にはこのような小規模な集落が散在していたと考えられます。

7区は、三方を山に囲まれ、南側に開口する谷地形で、中世以降に棚田として利用されていました。調査区中心部の斜面地に古代の柱穴や土坑などが検出され、土師器・須恵器・黒色土器などが出土しています。

写真

上段 1区全景
下段 7区土器出土状況



写真

上段 調査地遠景
下段 縄文土器出土状況

千提寺南遺跡は千提寺遺跡群の南部に位置し、西から東に下る谷地形になっています。傾斜を利用して中世に棚田など耕作地として利用されていました。

最も注目すべきは、東部の谷底近くで検出した土坑です。縄文時代中期末（今からおよそ4,000年前）の土器がまとまって出土しました。他にも早期の有舌尖頭器など縄文時代の土器・石器が出土しています。

千提寺南遺跡

茨木市千提寺地区と隠れキリシタン

【高山右近入城とキリスト教布教】

千提寺地区は、キリシタン大名高山右近^{たかやまうこん}の旧領地で、キリシタン墓碑や聖フランシスコ・ザビエル像などのキリシタン関係の資料が数多く存在することから、『隠れキリシタンの地』として有名なところ です。キリシタン信仰が当地にもたらされる以前の中世期は、仁和寺の荘園の一つである忍頂寺五ヶ庄^{にんちやうじごかしやう}（銭原村・音羽村^{おとわ}・泉原村^{にんなじ}・寺辺村^{じへん}・佐保村）のうちの寺辺村に含まれていたようです。

高山右近は、戦国時代から江戸時代初期にかけての武将であり、キリシタン大名として有名です。摂津国三島郡高山庄（現在の大阪府豊能郡豊野町高山）に生まれ、永禄7（1564）年に12歳でキリスト教の洗礼を受けました（洗礼名は「ジュスト」）。天正元（1573）年から天正13（1585）年には高槻城主をつとめ、この間、高槻城に教会が建立されました。天正9（1581）年に行なわれた復活祭には15,000人の人々が参加したと記録されています。

平成10（1998）年に実施された高槻城跡の発掘調査では、現在の野見神社^{の み じん じや}東方で、市松状に整然と配置された、大人用と子供用あわせて27基の木棺が出土しました。その中には棺の蓋板に「二支十字^{にしじゆうじ}」といわれる十字架が墨書された例、棺から木製のロザリオ^{じゆず}（数珠状の祈りの道具）が出土した例があったことから、キリシタンの墓地と考えられています。

右近が、忍頂寺五ヶ庄を拝領したのは天正6（1578）年のことです。天正11（1583）年から天正13（1585）年の3年間には、千提寺地区を含む山間部において集中的に布教活動が行なわれ、改宗が進んだと考えられます。

【現代に伝わるキリシタン遺物】

聖フランシスコ・ザビエル像（重要文化財）

布教のために最初に日本を訪れ、布教の基礎をつくったイエズス会の宣教師の画像。ザビエルの顔の右側に記されているIHSは、イエズス会の紋章の一部です。和紙に彩色されており、作者は日本人とみられます。禁教時代以降もキリシタン信仰を続けた家で、「あけずの櫃」と呼ばれ、屋根裏の梁にくくりつけられていた箱の中から発見されました。

マリア十五玄儀図^{じゅうごげんぎず}

2幅発見されており、1幅はザビエル像がしまわれていた箱に収められていました。他の1幅も、孟宗竹で作った筒に収められ、人目を避けてしまわれていました。マリアとイエスの生涯で起こった象徴的な出来事を、「喜び」「悲しみ」「栄福」の三つにわけ、それぞれについて5つずつのエピソードを、コマ割りした画角の中に描きこんだ絵画です。

上野マリヤ墓碑

当地域におけるキリシタン遺跡発見のきっかけとなった墓碑。碑面には二支十字と、上野マリヤの名前が刻まれています。

Point 隠れキリシタン

徳川幕府の禁教令下において、キリスト教の信仰を守り続けた人たち（潜伏キリシタン）や、明治6（1873）年におけるキリスト教解禁後もカトリックに復帰せず、潜伏時代の信仰を守り続けた人たち（かくれキリシタンもしくはカクレキリシタン）の総称。



聖フランシスコ・ザビエル像
写真提供・所蔵：神戸市立博物館



マリア十五玄儀図
写真提供：茨木市教育委員会 / 個人蔵



上野マリヤ墓碑
写真・拓影提供：茨木市教育委員会 / 個人蔵

調査の成果



キリシタン墓

せまい尾根上に東西方向に並ぶ墓が見つかりました。このうちのひとつは、墓坑の上部で四角く囲まれた石組遺構を検出しました。石組遺構は人頭大の自然石を組んだもので、大分県下藤キリシタン墓地（16・17世紀）でも同じものがみついています。この墓からは人骨の一部が出土しており、東に頭を向けて葬られていたことがわかりました。周辺の墓と異なる特殊性や地域性から、キリシタン墓と考えられます。



近世を中心とする墓地【マエノヤマ】

キリシタン墓他から南西に離れた山頂で、約40基の墓が見つかりました。いずれも平面が円形か隅丸方形で、とても深く掘られているのが特徴です。



人骨が出土した近世墓

いくつかの墓の中からは、人骨がほぼ完全な状態で出土しました。出土した状態から、遺体の足を折り曲げた屈葬で、方形の棺に納められた「座棺」で埋葬されたことがわかります。



土製品が出土した近世墓

墓の一部から、花魁や虚無僧をかたどった土人形が出土しています。遺体のかたわらに副葬されたものと考えられます。潜伏キリシタン時代、マリア像の代わりに使用されたものかもしれません。



堀

中世を中心とする墓地と近世を中心とする墓地の間で、断面がV字形に掘られた堀が見つかりました。出土した土器から、鎌倉時代以前に掘削され、中世末～近世初頭には埋まったことがわかりました。



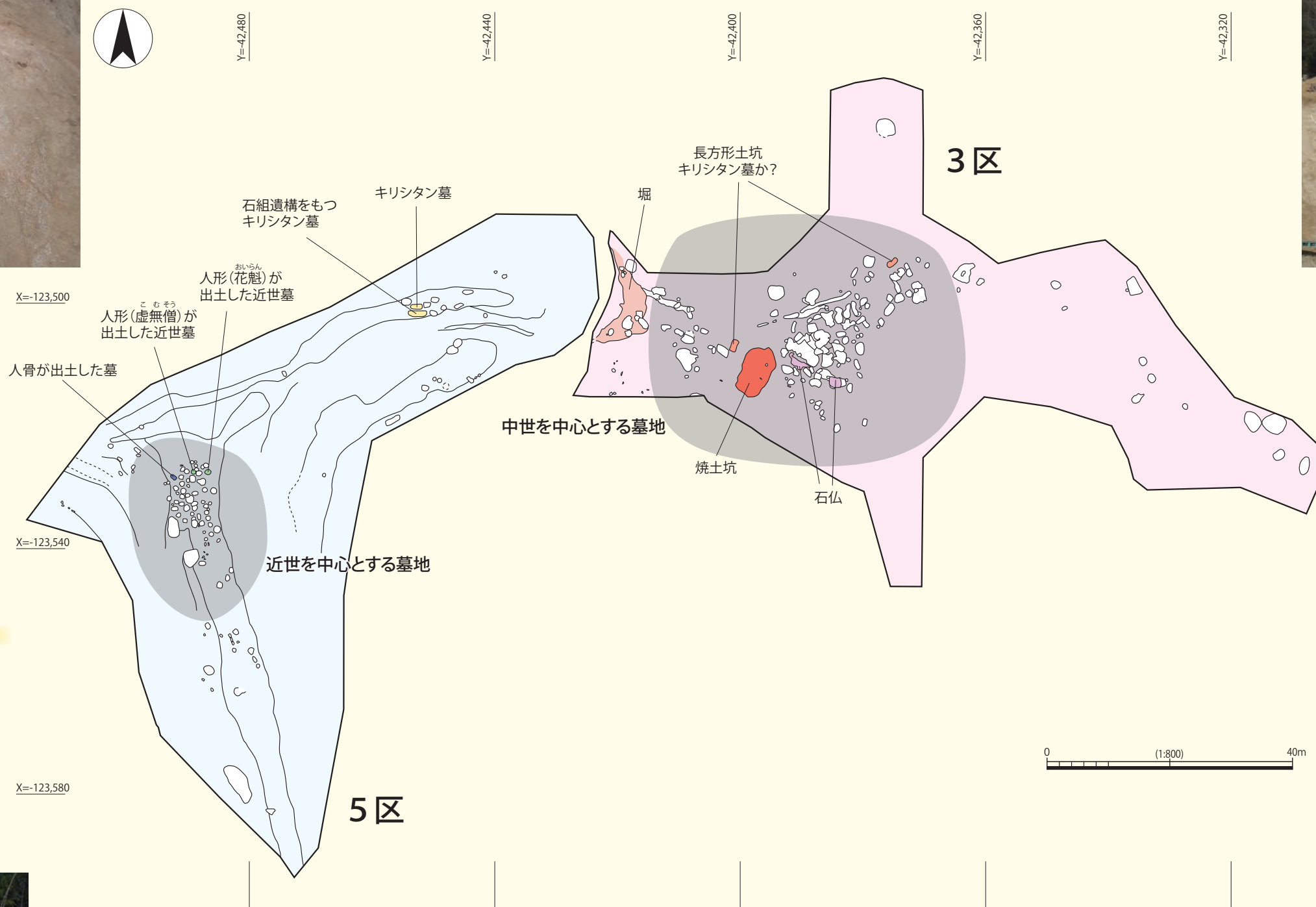
石 仏

石仏が並んで出土しました。石仏は、立った状態のものと地面に置いた状態ものがあります。阿弥陀仏が彫りだされており、この地に葬られた人々は中世には仏教に帰依していたことがわかります。



長方形の土坑

墓域の縁辺にあたる山頂部でみつかりました。中世末から近世の一般的な墓は座棺で、方形または円形の土坑墓です。一方、キリシタン墓は長方形の墓坑で伸展葬が一般的であることから、この墓はキリシタン墓になる可能性があります。



中世を中心とする墓地【墓の丸】

山頂から東西にのびる尾根上と、南へひろがる緩斜面に中世を中心とする墓地がひろがります。石仏や五輪塔を伴う石組墓や焼けた骨片が出土する土坑墓が50基前後みついています。



焼 土 坑

炭が充満し、焼けた骨片や土師器、銭貨、鉄釘などが多量に出土しました。火葬場になる可能性があります。銭貨には宋銭のほか寛永通寶が含まれることから、中世から近世にかけての遺構と考えられます。